

令和5年度 柏小学校自己評価書<前期>

重点目標	評価項目	評価指標・目標値	評定	考察(◇)及び改善方策(◆)		4	3	2	1	肯定率	個別評価	
学びづくり(確かな学力の定着と向上)	1 基礎的・基本的な学力の定着	指標① 学校は、個の教育的ニーズに応じた指導・支援を行い、個別最適な学びの充実に努めているか。 <目標値 児童・保護者・教職員の90%以上が肯定>	A	◇ 児童・保護者・教職員共に、肯定率が90%を上回り、目標は達成しているが、「2」と回答した児童への支援が必要である。教職員の評価として、個に応じた指導支援に努めているが、一人一人の力に合った課題設定、自主学習ノートの活用等、個別最適な学びが不十分であるとの課題点が挙げられている。 ◇ 基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けるよう、丁寧な指導を継続したことが肯定率の高さにつながっている。今後も、最後まで課題をやり遂げさせたり、漢字や計算の小テストを実施したりする等の指導を継続する。 ◆ 読解力・思考力・表現力には課題があり、具体的な指導方法を教員間で共有し、授業や「かんべきタイム」の中で効果的に指導を行う。(読解・記述問題対策、作文指導、自分の考えを伝え合う学習等) ◆ 全国学力・学習状況調査、単元末テストを分析し、学級や個々の実態を教員間で共通理解し、個に応じた課題設定、自己学習ノート等、個別最適な学びを工夫する。	児童①	64	31	5	0	95	A	
					統一						37人	
					児童⑦	67	26	7	0	93	A	
					保護者①	28	69	3	0	97	A	
					教職員①	38	62	0	0	100	A	
					教職員②	40	60	0	0	100	A	
	2 学習習慣の確立	指標② 学校は、児童に家庭学習の習慣が身に付くよう家庭学習を工夫し、自己学習力の育成に努めているか。 <目標値 児童・保護者・教職員の90%以上が肯定>	B	◇ 児童・保護者・教職員共に、肯定率は90%を下回っている。特に、保護者の肯定率は72%と低く、学年に応じた家庭学習の習慣を身に付けることが課題である。 ◆ 「家庭学習の手引き」「自主学習の手引き」を活用し、個々の課題に合った家庭学習を工夫することで、家庭学習に自主的に取り組めるよう支援し、自己学習力を育てる。 ◆ 授業と関連付けた宿題を出すことにより、家庭学習への意欲を高める。	児童⑧	64	23	10	3	87	B	
					統一						34人	
					保護者③	22	50	19	9	72	C	
					教職員⑤	0	86	14	0	86	B	
	3 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善	指標③ 教師は、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業を目指して指導方法を工夫し、児童が「分かる・考える・伸びる」授業づくりをしているか。 <目標値 児童・教職員の90%以上が肯定>	B	◇ 児童の肯定率は、90%を上回っているが、教職員は、90%を下回っている。教職員は、「主体的・対話的な学び」について課題を持っており、今後も、協働的な学びを深めていくことが大切である。 ◆ 問題解決や体験的な学習の充実を図り、道徳科など各教科だけでなく、集会等あらゆる活動を通して、対話する場を設ける。 ◆ 教師が良きファシリテーターとなり、問い掛けや問い返しなどの工夫をしながら、児童の対話力の向上を図る。	児童②	49	46	5	0	95	A	
					児童③	46	44	10	0	90	A	
					教職員②	14	72	14	0	86	B	
					教職員④	25	63	12	0	88	B	
	4 情報活用能力の育成	指標④ 児童や教師がクロームブックを積極的に・効果的に活用し、よさや楽しさを実感しているか。 <目標値 児童・保護者・教職員の90%以上が肯定>	A	◇ 90%以上の児童が、クロームブック等を使った学習を「楽しい・分かりやすい」と回答している。保護者・教職員の肯定率も、90%を上回っており、目標を達成している。しかし、進んでクロームブックを使っていると回答した児童は、85%と他項目に比べ低く、毎日の授業における効果的の活用が課題である。 ◆ クロームブックのミライシード等のアプリを効果的に活用して学習する。また、書く力の向上も重要であることから、今後もデジタルとアナログの活用場面を効果的に選択しながら、授業の充実を図る。 ◆ 週案に、クロームブックを活用する授業を明記し、1日1回以上活用できるようにする。	児童④	62	28	8	2	90	A	
					統一						35人	
					児童⑤	56	41	0	3	97	A	
					児童⑥	59	26	13	2	85	B	
					保護者②	34	59	7	0	93	A	
					教職員③	43	57	0	0	100	A	
5 読書活動の推進	指標⑤ 進んで読書に親しむ児童が育っているか。 <目標値 児童・保護者・教職員の90%以上が肯定>	B	◇ 児童の「進んで読書をしている」という自己評価は、90%を上回っているのに対し、教職員・保護者は、90%を下回っている。特に、保護者の肯定率が54%と低く、家庭での読書が十分ではないと感じていることがうかがえる。 ◆ 朝読書の時間を、確実に確保する。また、本の紹介や図書委員による読み聞かせを積極的に行い、児童が本に親しめるようにする。 ◆ エイリス(EILS)のみきゅん通帳アプリを活用したり、読んだ本の量が分かるような掲示をしったりして読書意欲を高め、児童の読書状況を保護者と共有する。	児童⑨	46	46	8	0	92	A		
				保護者④	13	41	44	2	54	D		
				教職員⑥	29	57	0	14	86	B		

心づくり (生徒指導の徹底と健全育成)	6 主体性、礼儀と感謝の心の育成	指標⑥ 児童が自ら「気付き・考え・実行する」とともに、きまりを守り、礼儀や感謝の心が育っているか。 <目標値 児童・保護者・地域・教職員の90%以上が肯定>	A	◇ 挨拶や感謝の心については、児童・地域・教職員の肯定率が、90%を上回っている。「挨拶・返事・靴そろえ」「気付き・考え・行動する」ことについて、学校生活の中で機会あるごとに指導し、児童も意識して行動するようになっていいると考えられる。しかし、保護者の肯定率は、81%と低い。学校でできていることが、家庭や地域では十分にできていないという課題がある。 ◇ 学校の決まりを守ることは、児童の肯定率が87%と低い。規範意識の向上を図る指導をさらに充実させる必要がある。 ◆ 挨拶や感謝の言葉の大切さが、児童の心に響き行動につながるよう、道徳科や学校生活全般を通して指導する。 ◆ 礼儀正しく思いやりのある児童が多いが、目上の人への接し方や友達との関わり方が気になる児童もいる。その都度声を掛け、正しい行動に導くようにする。	児童⑫	54	44	2	0	98	A
					児童⑬	67	20	13	0	87	B
					児童⑰	65	31	2	2	96	A
					保護者⑦	22	59	19	0	81	B
					地域①	38	62	0	0	100	A
					教職員⑧	36	64	0	0	100	A
					教職員⑦	40	50	10	0	90	A
	7 いじめや差別のない認め合い支え合う集団づくり	指標⑦ 「柏小学校いじめ防止基本方針」を基に、児童が主体的に「柏っ子のきまり5か条」を守り、いじめや差別を許さない心、認め合い支え合う温かい集団が育っているか。 <目標値 児童・保護者・教職員の90%以上が肯定>	B	◇ 児童・保護者共に、肯定率が90%を下回っているが、教職員の肯定率は100%である。教職員の評価の高さは、「柏っ子のきまり5か条」を児童に意識付けたり、アンケートや教育相談を定期的に行ったりするなど、児童の支援に努めている取組を評価したものと考える。今後も、友達の気持ちや立場を考え、優しい言動ができる児童を育てていく必要がある。 ◆ 児童の悩みや相談に親身に対応し、連携して教育相談や指導に当たる。保護者とは、情報を共有し協力して対応する中で、相互理解を深める。 ◆ 丁寧な言葉遣いに心掛けて生活させるなど、相手を思いやった優しい言動を増やしていく。	児童⑭	51	33	13	3	84	B
					保護者⑩	13	69	18	0	82	B
					教職員⑩	70	30	0	0	100	A
					教職員⑫	60	40	0	0	100	A
	8 自己肯定感・自己有用感の育成	指標⑧ 児童は、友達や教師と積極的に関わりながら、楽しく学校生活を送ることができているか。 <目標値 児童・保護者・教職員の90%以上が肯定>	B	◇ 教職員は、児童一人一人と向き合い、信頼関係確立に努めているが、「学校は楽しい」に関する児童・保護者の肯定的な回答は、90%を下回っており、目標を達成していない。「あまり楽しくない・楽しくない」と答える児童への支援が必要である。 ◆ 児童が主体的に計画する学級活動や、「ふれあいタイム」などの全校遊び等を充実させ、児童と教職員が触れ合う機会を多く設定し、信頼関係を深めていく。	児童⑩	54	33	5	8	87	B
統一									34人		
保護者⑤					56	28	16	0	84	B	
指標⑨ 児童は、自分によいところがあると自信を持っているか。 <目標値 児童の90%以上が肯定>		B	◇ 教職員は、児童の頑張りや良さを認め励ます支援に努めているが、児童の自己肯定感・自己有用感に関する肯定率は、90%を下回っており、手立ての工夫・改善が必要である。 ◆ 児童の良いところを教員が全体の場で積極的にほめたり、「感謝の木」で友達の良さを見付け合ったりして、児童が互いに認め合い支え合う学級・学校の風土づくりをする。	児童⑱	33	49	15	3	82	B	
				教職員⑭	46	54	0	0	100	A	
				児童⑯	54	41	5	0	95	A	
指標⑩ 児童は、あきらめずに物事に挑戦しているか。 <目標値 児童・教職員の90%以上が肯定>		A	◇ 児童・教職員の肯定率は、90%を上回っているが、保護者は、75%と低い評価にとどまっている。一人一人の頑張りが保護者に伝わっていない可能性がある。 ◆ 児童の目標を保護者と共有するようにし、児童の頑張っている姿をホームページや通信等で積極的に紹介するだけでなく、連絡ノートや電話など、保護者に伝える方法を工夫する。	保護者⑧	19	56	19	6	75	C	
				教職員⑩	36	55	9	0	91	A	

体づくり	9 基本的な生活習慣の確立	指標⑪ 規則正しい生活をする児童が育っているか。 <目標値 児童・保護者・教職員の90%以上が肯定>	B	◇ 教職員の肯定率は、100%であるが、「早寝・早起き・朝ごはん」が習慣化しているという児童・保護者の肯定率は、90%を下回っている。学校での指導を家庭につなげていくことが課題である。 ◆ 規則正しい生活をするための大切さについて、具体的なデータや分かりやすい資料を活用して、体育科や特別活動、保健委員会の活動等で積極的に伝える。 ◆ 通信等を活用して、保護者と家庭生活・学習調べの結果や考察を共有し、家庭との連携を図りながら、個に応じた指導・支援を行う。	児童⑪	61	26	13	0	87	B
	10 体力づくりの推進	指標⑫ 学校は、児童の体力向上のための取組を積極的に行っているか。 <目標値 児童・保護者・教職員の90%以上が肯定>	A	◇ 体育科や「いきいきタイム」で運動に親しんだり、放課後の水泳練習を行ったりして、体力向上を図った結果、目標を持って努力する児童が増え、児童・教職員共に肯定率は、90%を上回っている。しかし、保護者の肯定率は、90%を下回っているため、児童の頑張りが、保護者に十分に伝わっていないと考えられる。 ◆ ITスタジアムや家庭での体力づくりで、ボール運動や縄跳びに取り組ませ、数値を用いた目標・到達度を示して意欲を高める。 ◆ 児童の頑張りを保護者にホームページや通信等を通して伝える。	統一					34人	
特色ある学校づくり	11 安全・防災教育の充実	指標⑬ 学校は、安全（防災）教育を教育課程に位置付け、家庭や地域・関係機関等と連携して「命を守る教育」を推進しているか。 <目標値 児童・保護者・教職員の90%以上が肯定>	A	◇ 避難訓練や防災教育を通して、「自分の命は自分で守る」とともに「自助・互助・共助」への意識が高まり、児童・保護者・教職員共に肯定率が90%を上回り、目標を達成している。防災アドバイザーや外部講師による学習会、防災フィールドワーク等の体験等により、貴重な学びができています。 ◆ 今後も、防災学習や防災マップ作りを通して、さらに児童の学びを深めるとともに、保護者・地域に学習の成果を発信する。また、消防団の協力による避難訓練や、内海地区の合同訓練等を通して、地域と共に防災を考える活動を実施する。	保護者⑥	50	38	9	3	88	B
	12 ふるさと学習の推進	指標⑭ 学校は、地域人材や自然・文化を活用するなど、地域の教育力を生かした教育活動を推進しているか。 <目標値 児童・保護者・地域・教職員の90%以上が肯定>	A	◇ 地域交流会を開催し、地域の方に昔の遊びや竹細工、手芸等を教わったり、参観日として保護者の方にも楽しんでいただいたりして、交流を深めることができた。児童・保護者・地域・教員全て肯定率が90%を上回り、目標を達成している。 ◆ 地域コーディネーターが、地域と学校をつなぐ役目となって、生活科や総合的な学習等で豊かな体験活動を行うことができていることから、今後も、地域コーディネーターを軸に、学校運営協議会や地域の方々の協力を得ながら、つながりを深めていく。	児童②①	64	26	10	0	90	A
					保護者⑩	50	34	16	0	84	B
					児童②②	74	23	3	0	97	A
					保護者⑬	25	72	0	3	97	A
					保護者⑭	41	56	3	0	97	A
					教職員⑯	50	50	0	0	100	A
	13 開かれた学校づくり	指標⑮ 学校は、各種通信やホームページ等で、学校の取組を発信したり、参観日等で積極的に公開したりしているか。 <目標値 保護者・地域・教職員の90%以上が肯定>	A	◇ ホームページや通信等を通して、教育活動や児童の様子を積極的に伝えるよう努めたことにより、保護者・地域・教職員の肯定率は、90%を上回っている。 ◆ 今後も、タイムリーな情報発信に努めるとともに、保護者・地域の方が来校しやすく相談しやすい学校づくりに努める。	教職員⑱	45	55	0	0	100	A
					児童⑱	54	44	2	0	98	A
					児童⑲	56	36	8	0	92	A
保護者⑨					31	69	0	0	100	A	
地域②					62	38	0	0	100	A	
教職員⑳	89	11	0	0	100	A					
教職員㉑	67	33	0	0	100	A					
保護者⑫	44	50	6	0	94	A					
地域③	50	50	0	0	100	A					
教職員㉒	50	50	0	0	100	A					
教職員㉓	75	25	0	0	100	A					
教職員㉔	44	56	0	0	100	A					
教職員㉕	64	36	0	0	100	A					

環境づくり	14	きれいな学校づくり	指標⑯ 学校は、校舎内外の美化や環境整備に努めているか。 <目標値 児童・地域・教職員の90%以上が肯定>	A	◇ 教室環境や校舎内外の環境整備に努め、安全できれいな環境を維持することができた。児童も、縦割り班の清掃活動や朝のボランティア活動に取り組み、児童・地域の肯定率は、90%を上回っている。教職員の肯定率が90%を下回ったのは、朝ボランティアや清掃などの取組に児童間で差があることを課題だと感じている結果である。 ◆ 教師が先に立って模範を示すとともに、進んで校内外の美化活動やボランティアに取り組んだ児童を称揚し、意欲の高揚を図っている。	児童⑮	51	41	8	0	92	A	
						地域④	62	38	0	0	100	A	
							教職員⑲	60	20	20	0	80	B
	15	安全管理の徹底	指標⑰ 学校は、教職員の危機意識を高め、児童の安全確保に努めているか。 <目標値 教職員の90%以上が肯定>	A	◇ 月に一度、校舎内外の安全点検を行い、日常的に気付いた場所は、その都度修理することに努めていることから、肯定率100%を達成している。 ◆ 今後も、全教職員が危機意識を高く持ち、安全な環境づくりに努める。	教職員⑳	63	37	0	0	100	A	
							教職員㉔	80	20	0	0	100	A
	16	教職員の資質・能力の向上	指標⑱ 教職員は自らの資質・能力の向上に努めているか。 <目標値 教職員の90%以上が肯定>	A	◇ 校内研修会を中心に、様々な教育課題や児童の課題について話し合ったり、授業改善のための研究授業を行ったりすることができたことにより、教職員の肯定率が高かったと考えられる。 ◆ 今後も校内研修や自己研修に努め、児童への指導に生かす。	教職員㉑	33	67	0	0	100	A	
							統一					12人	
							教職員㉒	43	57	0	0	100	A
							教職員㉓	100	0	0	0	100	A
	17	学校組織の活性化	指標⑲ 学校の運営体制を組織的・計画的に点検・評価・改善し、業務改善に努めているか。 <目標値 教職員の90%以上が肯定>	A	◇ 教職員の肯定率は、90%を上回り目標を達成している。問題を一人で抱え込まないで、組織で対応するようにしていることが高い評価につながったと考えられる。時間外勤務については、不十分と回答している教職員がおり、軽減に向けた対策が必要である。 ◆ 仕事のやりがいを重視しつつ業務改善やチームとして対応することにより、時間外勤務を減らすように努める。計画的に校務を行うことで、時間対効果を考えた改善に努める。	教職員㉕	40	50	10	0	90	A	
							教職員㉖	57	43	0	0	100	A
							教職員㉗	64	36	0	0	100	A
						教職員㉘	64	36	0	0	100	A	
						教職員㉙	43	57	0	0	100	A	
						教職員㉚	36	64	0	0	100	A	